

## 刊行にあたって

私が床矯正治療と出合って間もないころ、私と同じように学び始めて日の浅いある先生から、「クラスプや唇側線の調整のポイントはあるのでしょうか？」という質問を受けました。それは私自身も知りたいことだったので、先達の先生に教えを請い、質問した先生とともに疑問を解消できました。

そのことを鈴木設矢先生に告げると、「始めたばかりの先生の疑問は、他の同じ立場の先生も必ず同じように疑問に思うもの。だから、成功したことや失敗したことを集めて整理しておけば、必ず他の先生の役に立つ。何事もやりっ放しではなく、“なぜそうなったのか？”の意味をつねに探りながら、いまかかわっている症例などに取り組むように」という言葉をいただきました。

それから私は、自分が疑問に思ったことや解決できたこと、失敗したこと、当初から知っていれば役に立ったであろうことなどをストックし、さらに他の歯科医師や歯科衛生士の疑問なども収集し続けています。加えて、床矯正研究会主催のセミナーなどに寄せられた質問も合わせると、その数は膨大な量となり、いまなお増え続けています。

そのなかから今回、メカニカルな治療、とくに床装置に関する内容のうち、臨床現場で疑問に感じやすいベーシックなテーマを厳選し、その解説をできるだけ簡潔にまとめたのが本書です。何事も、基礎的なことを積み重ねることで応用が可能となり、多くの経験を共有することで多くのトラブルを未然に防げるようになります。

本書中でも触れているように、床装置は顔面の発達や歯列を含む咬合育成の一つの手段にすぎません。まずは床装置の正しい使い方、そして適応・不適応を見極める観察力を身につけることが不可欠です。

術者の治療選択肢が多ければ、その分、患者さんにとってプラスです。ですから、患者さんにとって最も身近な存在である私たち臨床医の治療選択肢が広がれば、それだけ多くの患者さんの利益に繋がるものと考えます。本書がその一助となれば、望外の喜びです。

最後に、本書執筆にあたりご尽力賜りました床矯正研究会の会員の先生方、写真撮影に協力いただいた患者さん、鈴木歯科医院のスタッフ、デンタルダイヤモンド社の皆様に、心から感謝申し上げます。

2014年8月

東京都・鈴木歯科医院 歯科医師 大河内淑子